

寄贈作品

作家名 奥田元宋（おくだ・げんそう）
作品名 富嶽晨輝
分類 絵画
収集区分 寄贈



作品の評価

奥田元宋(1912～2003)

明治 45 年 (1912)	広島県双三郡八幡村（現 三次市）に生誕
昭和 6 年 (1931)	児玉希望の内弟子となる
昭和 13 年 (1938)	文部省美術展覧会に《盲女と花》を出品、特選に選ばれる
昭和 48 年 (1973)	日本芸術院会員
昭和 52 年 (1977)	日展理事長
昭和 56 年 (1981)	文化功労者
昭和 59 年 (1984)	文化勲章
平成 8 年 (1996)	京都慈照寺銀閣の庫裏・大玄関・弄清亭の障壁画を制作
平成 15 年 (2003)	没（享年 90 歳）

奥田元宋（1912～2003）は戦後画壇で活躍した日本画家で、日本美術展覧会（日展）および新日本美術展覧会（新日展）の審査員を長く務め、日展理事長にも就いた。日本の風景美の伝統を受け継いだ静かで神秘的な水墨画の世界に、多彩な色使いによる色彩美を加え、新朦朧(もうろう)派と評される独自の風景画を確立した。特に、赤い絵の具を用いた作品は、同時代の日本画家東山魁夷の「魁夷の青」に対して、「元宋の赤」と評される。画業のほか短歌、漢詩にも造詣が深く、宮中の歌会始の召人にも選ばれた。妻の小由女（さゆめ）も日本を代表する人形作家であり、夫婦そろって文化勲章を受章している。

今回寄贈された「富嶽晨輝」は朝日を浴びて輝く富士山を描いたもので、「元宋の赤」で描かれた富士と木々の緑の対比が美しい作品である。